

終わりに…「令和の日本型学校教育」の構築を目指して

中央教育審議会は『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）令和3年1月26日において、「我が国の学校教育がこれまで果たしてきた役割やその成果を振り返りつつ、新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を『令和の日本型学校教育』とし、その姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」としました。そして、「ICTの活用と少人数によるきめ細かな指導体制の整備により、『個に応じた指導』を学習者視点から整理した概念である『個別最適な学び』と、これまでも『日本型学校教育』において重視されてきた、『協働的な学び』とを一体的に充実することを目指しています。さらに、『令和の日本型学校教育』の構築に向けたICTの活用に関する基本的な考え方」において、次のように述べています。

○これまで繰り返し述べてきたように、「令和の日本型学校教育」を構築し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するためには、学校教育の基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なものである。我が国の学校教育におけるICTの活用が国際的に大きく後れをとってきた中で、GIGAスクール構想を実現し、これまでの実践とICTとを最適に組み合わせることで、これからの学校教育を大きく変化させ、様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげていくことが必要である。その際、PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行うことが重要である。

○ICTが必要不可欠なツールであるということは、社会構造の変化に対応した教育の質の向上という文脈に位置付けられる。すなわち、子供たちの多様化が進む中で、個別最適な学びを実現する必要があること、情報化が加速度的に進むSociety5.0時代に向けて、情報活用能力など学習の基盤となる資質・能力を育む必要があること、少子高齢化、人口減少という我が国の人口構造の変化の中で、地理的要因や地域事情に関わらず学校教育の質を保障すること、災害や感染症等の発生などの緊急時にも教育活動の継続を可能とすること、教師の長時間勤務を解消し学校の働き方改革を実現することなど、これら全ての課題に対し、ICTの活用は極めて大きな役割を果たし得るものである。

○その一方で、ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう、十分に留意することが必要である。直面する課題を解決し、あるべき学校教育を実現するためのツールとして、いわゆる「二項対立」の陥穽に陥ることのないよう、ICTをこれまでの実践と最適に組み合わせ有効に活用する、という姿勢で臨むべきである。

○同時に、ICTが我が国の学校教育に与える影響の全てを現時点で予測することはできない。子供たちがICTを日常的に活用することにより、自らの学習を調整しながら学んでいくことができるようになるとともに、予想しなかったような形で子供たちの可能性が引き出される可能性があることにも着目する必要がある。また、子供の健康面への影響にも留意する必要がある。

○さらに、学校におけるICT環境の整備とその全面的な活用は、長年培われてきた学校の組織文化にも大きな影響を与え得るものである。例えば、紙という媒体の利点や必要性は失われな一方、デジタルを利用する割合は増えていくであろうし、学校図書館における図書等の既存の学校資源の活用や

充実を含む環境整備の在り方、校務の在り方や保護者や地域との連携の在り方、更には教師に求められる資質・能力も変わっていくものと考えられる。その中で、Society5.0 時代にふさわしい学校を実現していくことが求められる。

令和3年度、ステップ0・1で「とにかく端末を使ってみる」ことを積み重ね、ステップ2・3と「かわさきGIGAスクール構想」を推進する中で、「令和の日本型学校教育」を構築し、川崎市として、ともに力を合わせ、未来社会の創り手を育てていきましょう。

令和3年3月1日 川崎市教育委員会

作成者 ☆は編集委員

監修 野中 陽一（横浜国立大学教授） 原 克彦（目白大学教授）

小田嶋 満 石井 宏之 市川 洋 森 有作 星野 泰夫 田中 一平

全般に関すること……………情報・視聴覚センター

☆栃木 達也 和田 俊雄 草柳 譲治 岸本 孝司 福山 創 ☆新田 瑞江
関口 大紀 野崎 智一 茅根 真帆 佐藤 晃 野村 晋 山森 大史
石橋 純一郎（長期研究員）

各教科等の学びに関すること……………カリキュラムセンター

辰口 直美 ☆宮嶋 俊哲 鶴木 朋和 石井 芳宏 高橋 徹 望月 隆
鬼頭 洋司 伊藤 悦子 越 有里 伊藤 由佳子 松本 崇 岡部 啓子
山中 美奈子 松浦 信明 齋藤 宗則 門口 知弘 ☆吉田 崇 野口 裕子
長澤 秀行

個に応じた指導や支援に関すること……………指導課・健康教育課・特別支援教育センター

猫橋 則文 吉澤 晋 ☆伊藤 牧人 國廣 隆之 高山 深紀世 奈良 雅裕
田中 雄三 鈴木 陽子 伊藤 琢也 近藤 春樹 日笠 健二 築部 めぐみ
宮川 淳子 中村 めぐみ 藤田 みどり ☆盛光 秀之 鹿島 理子
清水 寿紹 中澤 英之

不登校等に関すること……………教育相談センター

小林 格 ☆松田 英典 山田 礼子 松崎 博晃 栗原 秀明

かわさき教育プラン・かわさき共生*共育プログラム・日本語指導に関すること……………教育政策室

二瓶 裕児 添野 雅美 大野 恵美 小島 昌子 ☆安斎 陽子 吉田 進
福岡 弘行 伊丹 裕子

協力 (株)ベネッセコーポレーション（ミライシードの使い方作成）

(株)JMC、(株)大塚商会（資料提供）

表紙（絵） 新田 瑞江 裏表紙（絵） 林 香織（長期研究員）





川崎市立

学校